



# PAN から Firepower Threat Defense 2100 への移行：例

---

- [メンテナンスウィンドウの前に次のタスクを実行する \(1 ページ\)](#)
- [メンテナンスウィンドウ中に次のタスクを実行する \(2 ページ\)](#)

## メンテナンスウィンドウの前に次のタスクを実行する

### 始める前に

Firepower Management Center をインストールして展開していることを確認します。詳細については、適切な『[Firepower Management Center Hardware Installation Guide](#)』および適切な『[Firepower Management Center Getting Started Guide](#)』を参照してください。

- 
- ステップ 1** ネットワークに Firepower 2100 シリーズ デバイスを展開し、インターフェイスを接続してアプライアンスの電源をオンにします。
- 詳細については、『[Cisco Firepower Threat Defense for the Firepower 2100 Series Using Firepower Management Center Quick Start Guide](#)』を参照してください。
- ステップ 2** Firepower Management Center によって管理される Firepower 2100 シリーズ デバイスを登録します。
- 詳細については、「[Add Devices to the Firepower Management Center](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Firepower 移行ツールの最新バージョンを <https://software.cisco.com/download/home/286306503/type> からダウンロードして実行します。
- 詳細については、「[Cisco.com からの FirePOWER 移行ツールのダウンロード](#)」を参照してください。
- ステップ 4** Firepower 移行ツールを起動し、接続先パラメータを指定する場合は、Firepower Management Center に登録した Firepower 2100 シリーズ デバイスを選択します。
- 詳細については、「[Firepower 移行ツールの接続先パラメータの指定](#)」を参照してください。
- ステップ 5** インターフェイスを FTD インターフェイスにマッピングします。

## メンテナンスウィンドウ中に次のタスクを実行する

(注) Firepower 移行ツールでは、インターフェイスタイプを FTD インターフェイスタイプにマッピングできます。

詳細については、「[インターフェイスと Firepower Threat Defense インターフェイスのマッピング](#)」を参照してください。

**ステップ 6** 論理インターフェイスをセキュリティゾーンにマッピングするときに、[Auto-Create] をクリックして、Firepower 移行ツールで新しいセキュリティゾーンを作成できるようにします。既存のセキュリティゾーンを使用するには、手動で論理インターフェイスをセキュリティゾーンにマッピングします。

詳細については、「[論理インターフェイスとセキュリティゾーンおよびインターフェイスグループへのマッピング](#)」を参照してください。

**ステップ 7** このガイドの手順に従って、移行する構成を順に確認および検証し、構成を Firepower Management Center にプッシュします。

**ステップ 8** 移行後レポートを確認し、手動で他の構成をセットアップして FTD に展開し、移行を完了します。

詳細については、「[移行後レポートの確認と移行の完了](#)」を参照してください。

**ステップ 9** 移行の計画時に作成したテスト計画を使用して、Firepower 2100 シリーズ デバイスをテストします。

## メンテナンスウィンドウ中に次のタスクを実行する

### 始める前に

メンテナンスウィンドウの前に実行する必要があるすべてのタスクが完了していることを確認します。[メンテナンスウィンドウの前に次のタスクを実行する \(1 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 1** 周辺スイッチングインフラストラクチャの Address Resolution Protocol (ARP) キャッシュをクリアします。

**ステップ 2** 周辺スイッチングインフラストラクチャから Firepower 2100 シリーズ デバイスインターフェイスの IP アドレスに対して基本的な ping テストを実行し、アクセス可能であることを確認します。

**ステップ 3** Firepower 2100 シリーズ デバイスインターフェイスの IP アドレスに対するレイヤ 3 ルーティングが必要なデバイスから基本的な ping テストを実行します。

**ステップ 4** Firepower 2100 シリーズ デバイスに新しい IP アドレスを割り当て、デバイスに割り当てられた IP アドレスを再利用しない場合は、次の手順を実行します。

1. IP アドレスを参照する静的ルートを更新し、Firepower 2100 シリーズ デバイスの IP アドレスを指すようにします。
2. ルーティングプロトコルを使用している場合は、ネイバーが Firepower 2100 シリーズ デバイスの IP アドレスを予期される接続先のネクストホップとして認識していることを確認します。

**ステップ 5** 包括的なテスト計画を実行し、Firepower 2100 デバイスの管理 Firepower Management Center 内でログをモニタします。

---

